

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900493		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲沢重本の家 1号館		
所在地	愛知県稲沢市重本2丁目84番地		
自己評価作成日	令和4年7月29日	評価結果市町村受理日	令和4年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2373900493-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2373900493-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が家庭の延長として本人の意向に沿い、安心と喜び又は毎日笑顔のある生活が送れる様に努め、共同生活を提供します。医療面においては、協力医であるクリニック(往診)での対応させていただきます。毎日バイタルチェックなど体調管理させていただきますので異常時早期発見に努め、異常時には協力医に相談します。協力医より色々な事で協力を得て色々な情報を頂いてます。年2回お宮掃除やごみゼロ運動などに参加しています。月1回職員が考え、各号館でイベント開催し、利用者様の笑顔を見られる環境作りをしています。散歩も状況に応じて対応しています。近所の人に果物やゆずを頂いたりのしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年6月の運営推進会議(書面開催)議事録では、平均介護度1.8で、介護度1の利用者は10名、2を含めると15名が軽度での入所となっています。活気がある反面本人の思いや考えも明瞭なため、コロナ禍におけるストレス軽減も考慮して毎月の恒例行事(8月夏祭り、9月敬老会、10月焼きそば会etc.)では、利用者が主役となるよう配慮しており、ホットプレート上で焼きそばを炒める役割をお願いしたり、作品のアイデアを募って自己有用感もてるよう支援しています。そのような中で利用者自身にも「皆に飲んでもらいたい」という気持ちが芽生え、息子に収穫物を届けさせる人もいて、皆でありがたく喜びを分かち合っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格を尊重し、“気と和み”を大切に、穏やかな介護を目指します。」という、ホーム独自の理念を掲げている。職員全員が理念を意識しながら声掛けや環境作りしている。	職員は総じて協力的です。コロナ禍となり、はからずも職員の家族や本人に陽性者もでてシフト調整に苦慮する場面もありますが、快く交替をかってでくれ、理念「気と和みを大切に」の浸透を管理者は日々受け止めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩の時、近所の人と挨拶を交わしている。年2回お宮掃除・ごみゼロ運動への参加している。	お宮清掃に向けば「様子はどうか」といったいたわりの声がかかり、またキャベツや西瓜など農作物の差し入れがあったり、散歩途中には撓わに実った蜜柑のお裾分けと、地域の人たちから大切にされていると実感することは少なくありません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議には、書面を渡してサービス内容の報告意見を聞き、日々のサービス向上に活かしています。	活動内容をまとめメンバーへ送付、その後情報・助言を得たうえで議事録とする方法をとっており、「面会はどうしていますか?」「控えてもらっています」といった双方向のやりとりを叶え、参会に近い質を担保しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の訪問を頻回に行い、事故報告・入居希望者について話し合い、協力関係を築いている。	稲沢市、地域包括支援センターとはこれまで通り連絡を取り合い、良好な関係を築けており、地域包括支援センターからは年に1件程度入居紹介も入っています。稲沢市からはきめ細やかなアナウンスや指導が都度メール配信で入っていて安心な態勢が覗えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに身体拘束について勉強し、身体拘束しない環境作りをしている。3ヶ月に1回身体拘束の適正化の会議をしている。	身体的拘束適正化検討委員会の議事録からは、利用者の状態や心理に着眼した検討が成されていることが確認できるほか、今後の方針や取組方法も記載されています。現在拘束が必要な症状のある利用者はいません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等を実施し、虐待が見過ごされる事のないように注意を払い防止に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月AA課程を実施し、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談、パンフレット等を通して、家族への訪問、施設の契約説明等がより理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様への面談、家族様施設来設時などの機会を利用し、話し合いながら意見要望を聞くようにしている。それらを運営に反映させている。	家族はもともと親切で協力的な人が多く、このような状況であっても補充品の対応に速やかに動いてくださって、事業所では助けられています。中には息子に「収穫したら届けるように」と本人が野菜や果実をねだり、届くと自慢気に満面の笑みを浮かべる日もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段仕事している中で管理者と話して意見や提案を聞くようにしている。	7年以上勤務する人が7割ほどいて、3年未満の人は数名との現状からも「働きやすい」職場なことが覗え、実際風通しがよく、助け合いの精神に溢れた職場です。また管理者となれる人が4名いることから意欲の高さを感じます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員同志の風通しを良くし、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が開催する研修に参加できるように努めている。AA課程毎月行い、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの尾西蓮池の家と交流を図り情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、職員が本人に受け入れられるような関係作りに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいるものを理解し、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより、信頼関係も深められ相談に繋げられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供、その人らしさを見極めて本人・家族より決め細やかな情報を提供していただき取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のお便りや、来設時に近況情報をお伝えして、本人・家族の意向を把握し、安心して楽しく生活出来る場を提供していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、一緒に会話したり、近況報告をし、信頼関係を作っている。身体に変化有る場合は随時報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で情報を聞いたり、家族から話を聞いたりして情報を得て支援している。	編み物や読書の趣味を続けることが可能な人には家族に材料を届けてもらい、雑誌が好きな人には訪問理美容の理容師に店舗で廃棄する雑誌を廻してもらうなどしています。またふりかけや珈琲などの嗜好でも本人の意向に沿って提供しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人・そうでない人と場面に応じて対応している。散歩・食事の時の席等工夫して対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係をサービス利用期間のみの関係性に終わることのないように訪問・電話等によりいきめ細かい連携を心掛けて居る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様とのコミュニケーションを大切に利用者様の状況の報告や昔の話の中から御本人の喜びを知ることにも努めている。	これまで8名の計画作成担当者を輩出してきて、昨年には9人目を迎え、各受講を通じて事例検討の課題を事業所内で取組むことが職員の学習として積み重なり、思いや意向の抽出やアプローチについてのハウツーが自然に職員に身についてきています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を知る事、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、本人全体像を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解した上、日々変化していく体調を毎日の暮らし方や心身状況をチェックし、よりよい暮らしをして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様より思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリングやカンファレンスを行っている。	介護実践者研修修了者(計画作成担当者として活動できる人)は9名もいて、本件に係る人材が豊富です。3ユニットの計画作成担当者の内1名が介護支援専門員を兼務していますが、各計作は一人前の業務がこなせるためユニットの特色も出せています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活で変化や気づきを個人別の介護詳細や申し送り帳に記録し、職員間で工夫しながら介護に取り組んでる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられように、区長・民生委員と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師の月2回往診以外にも相談したり、ほかの医療機関にも紹介して頂くなどし支援している。利用者様の医療情報は家族を通じて医師とホームが共有している。	協力医は月2回の来所で半数ずつ診ていて、利用者にとっては月1回の受診です。隔週医師が常駐するため具合が変われば診療日以外でも診てもらえ助かることもあります。看護師の帯同はなく、管理者と当日の勤務者とで立ちあい、「介護詳細」に記録しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による迅速な対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐ為に医師と連携を図り、入院時には随時家族と連携をとり、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の理解を得て、看取りの経験を複数回経験している。利用者様・ご家族様の意向を尊重し、適切な対応をしている。	協力医は24時間オンコールで看取りにも協力的です。「食べられない」と退去となるころもありますが、当事業所では経腸栄養剤で数ヶ月ケアを続け、本人も「皆といたい」とリビングで塗り絵をして過ごす日もあったほどで、最期は家族と職員に見送られ無事旅立たとの例もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AA課程で急変時や介護事故の勉強をし、またどう対応するかマニュアルみて全ての職員が対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、誘導、避難経路の確認、消火器の使い方や位置の確認など訓練を年2回行っている。	2回の法定訓練では、防火管理者が消火器の使い方などの指導をおこなっていますが、消防署職員の指導を仰いだり、水消火器を借りてくるといったことはおこなわず、内容は最小限としています。水害対策訓練もプラスαで実施しています。	新採者には勤務初日、消火器や通報装置の位置、避難経路の指導をおこなうよう期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時、介助者と共に中に入り、ドアを閉めて行っている。各居室に入室する際はノックと御本人に声を掛けて行っている。	ブルーファイル(個人ファイル)は鍵付きの棚に保管され、管理者の管理下に置いています。また一つの文化として事業所の職員は利用者を「~さん」と呼び、名字が同じ場合は下の名前として、一度たりともニックネームやちゃん付けとなることはありません。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がスタッフに声の掛けやすい環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入眠の時間・食事・入浴に関して御本人の気持ちを理解しながら進めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を着て頂けるように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態や食器等も1人1人にあつた物を提供出来る様にしている。	3食すべて職員が調理していますが、昼と夕の材料は業者搬入です。同じ材料、同じメニューなものの、ユニット独自の調理を貫き、お互いに作りあうといったことはしません。簡単な下ごしらえや味見など、利用者に手伝ってもらう事もあります。	八百屋発注も調理も職員がまかなう朝食で一度もパン提供がないとのことですので、名古屋名物の小倉トーストも含め今後は検討ください。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分・摂取量、毎食チェックをしながら一人一人の体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のレベルに合わせ出来る事はして頂く。声掛けにより食後口腔ケアを行い、清潔を保つ。また、訪問歯科で見て頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を行い、オムツやパットの使用を減らしている。訴えの無い方などは排泄チェック表をみて、誘導を行っている。	車いすの利用が6名、ベッド上の交換が1名いますが、他は数名を除いて自力でトイレに向かっています。ただし、拭き残しや汚染もあるため職員の補助が必要です。時間を計り、こまめに声をかけることで失禁を減らし、家族の経済的負担にも貢献しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を絶えずチェックし、食事、服薬調整、便秘にならないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	着更時、入浴洗体も声掛けながらやって頂きます。定期的入浴を基本としている。体調が悪い時は全身清拭と着衣交換を行い、つねに清潔にしていこうと努めている。	お湯は入れ替えず、掛け流しです。浴剤は使っていませんが、冬至の頃になると散歩で親しくおつきあいのあるお寺から届く柚子を浮かべる日もあります。かきむしりなどを見つけると即医師に連絡して薬を用意してもらい、小事の内に対処しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活のパターンに合わせて休憩時間を作っている。体調に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつ服薬管理、確認し症状の変化等記録をとりきめ細かくチェックしています。薬の管理は複数のスタッフで確認・服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭きの手伝いをしていたでています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	状況に応じて散歩に出掛ける。また外気浴を行っている。	事業所の建物の廻りを周遊する散歩以外は戸外から出ることを控えており、ストレスがたまらないよう毎月の室内行事に力を注ぎ(8月夏祭り、9月敬老会、10月焼きそば会、11月作品展会 etc.)、楽しみを提供しています。	



### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして預かり、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「おたより」の中に近況連絡事項等を書いてお知らせしています。イベントのお知らせもお便りに書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは利用者様が自由に誰とでも話ができる様テーブル・ソファを設置しています。周りも車椅子が自由に動ける様にしています。	清掃頻度は替えていませんが、消毒剤を使用しており、換気は日中はほぼ開けたままとしています。また、人の出入りは最小限に押さえています。業者点検など致し方ない場合は、辞去後の消毒を徹底しており、利用者の安全衛生に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方がテーブルを囲んで好きな場所で過ごして頂けるように努める。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓はもちろん動きやすいように下には物は置かずしている。御本人の作品を飾り暖かい雰囲気になっています。	車いすの場合、動きやすいよう動線の確認を重ねるとともに、常に整理整頓を心がけています。最近では「3、4ヶ月も会わんと忘れてしまうでねえ」と、家族が写真を届けてくださることが増えていて、居室に飾るのを職員が手伝っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置の配慮などし、居室内に自分の作品を飾っている。それぞれ出来る事を見極め、個々の支援を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900493		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲沢重本の家 2号館		
所在地	愛知県稲沢市重本2丁目84番地		
自己評価作成日	令和4年7月29日	評価結果市町村受理日	令和4年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2373900493-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2373900493-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年9月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様が家庭の延長として本人の意向に沿い、安心と喜び又は毎日笑顔のある生活が送れる様に努め、共同生活を提供します。医療面においては、協力医であるクリニック(往診)での対応させていただきます。毎日バイタルチェックなど体調管理させていただきますので異常時早期発見に努め、異常時には協力医に相談します。協力医より色々な事で協力を得て色々な情報を頂いています。年2回お宮掃除やごみゼロ運動などに参加しています。月1回職員が考え、各号館でイベント開催し、利用者様の笑顔を見られる環境作りをしています。散歩も状況に応じて対応しています。近所の人に果物やゆずを頂いたりのしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

本年6月の運営推進会議(書面開催)議事録では、平均介護度1.8で、介護度1の利用者は10名、2を含めると15名が軽度での入所となっています。活気がある反面本人の思いや考えも明瞭なため、コロナ禍におけるストレス軽減も考慮して毎月の恒例行事(8月夏祭り、9月敬老会、10月焼きそば会etc.)では、利用者が主役となるよう配慮しており、ホットプレート上で焼きそばを炒める役割をお願いしたり、作品のアイデアを募って自己有用感がもてるよう支援しています。そのような中で利用者自身にも「皆に飲んでもらいたい」という気持ちが芽生え、息子に収穫物を届けさせる人もいて、皆でありがたく喜びを分かち合っています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格を尊重し、“気と和み”を大切に、穏やかな介護を目指します。」という、ホーム独自の理念を掲げている。職員全員が理念を意識しながら声掛けや環境作りしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時、近所の人と挨拶を交わしている。年2回お宮掃除・ごみゼロ運動への参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議には、書面を渡してサービス内容の報告意見を聞き、日々のサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の訪問を頻回に行い、事故報告・入居希望者について話し合い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに身体拘束について勉強し、身体拘束しない環境作りをしている。3ヶ月に1回身体拘束の適正化の会議をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等を実施し、虐待が見過ごされる事のないように注意を払い防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月AA課程を実施し、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談、パンフレット等を通して、家族への訪問、施設の契約説明等がより理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様への面談、家族様施設来設時などの機会を利用し、話し合いながら意見要望を聞くようにしている。それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段仕事している中で管理者と話して意見や提案を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員同志の風通しを良くし、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が開催する研修に参加できるように努めている。AA課程毎月行い、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの尾西蓮池の家と交流を図り情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、職員が本人に受け入れられるような関係作りに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいるものを理解し、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより、信頼関係も深められ相談に繋げられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供、その人らしさを見極めて本人・家族より決め細やかな情報を提供していただき取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のお便りや、来設時に近況情報をお伝えして、本人・家族の意向を把握し、安心して楽しく生活出来る場を提供していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、一緒に会話したり、近況報告をし、信頼関係を作っている。身体に変化有る場合は随時報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で情報を聞いたり、家族から話を聞いたりして情報を得て支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人・そうでない人と場面に応じて対応している。散歩・食事の時の席等工夫して対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係をサービス利用期間のみの関係に終わることのないように訪問・電話等によりいきめ細かい連携を心掛けて居る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様とのコミュニケーションを大切に利用者様の状況の報告や昔の話の中から御本人の喜びを知ること努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を知る事、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、本人全体像を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解した上、日々変化していく体調を毎日の暮らし方や心身状況をチェックし、よりよい暮らしをして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様より思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリングやカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活で変化や気づきを個人別の介護詳細や申し送り帳に記録し、職員間で工夫しながら介護に取り組んでる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられように、区長・民生委員と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師の月2回往診以外にも相談したり、ほかの医療機関にも紹介して頂くなど支援している。利用者様の医療情報は家族を通じて医師とホームが共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による迅速な対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐ為に医師と連携を図り、入院時には随時家族と連携を取り、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の理解を得て、看取りの経験を複数回経験している。利用者様・ご家族様の意向を尊重し、適切な対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AA課程で急変時や介護事故の勉強をし、またどう対応するかマニュアルみて全ての職員が対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、誘導、避難経路の確認、消火器の使い方や位置の確認など訓練を年2回行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時、介助者と共に中に入り、ドアを閉めて行っている。各居室に入室する際はノックと御本人に声を掛けて行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がスタッフに声の掛けやすい環境作り心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入眠の時間・食事・入浴に関して御本人の気持ちを理解しながら進めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を着て頂けるように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態や食器等も1人1人にあった物を提供出来る様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分・摂取量、毎食チェックをしながら一人一人の体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のレベルに合わせて出来る事はして頂く。声掛けにより食後口腔ケアを行い、清潔を保つ。また、訪問歯科で見て頂いている。		



### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を行い、オムツやパットの使用を減らしている。訴えの無い方などは排泄チェック表をみて、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を絶えずチェックし、食事、服薬調整、便秘にならないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	着更時、入浴洗体も声掛けながらやって頂きます。定期的入浴を基本としている。体調が悪い時は全身清拭と着衣交換を行い、つねに清潔にしていくように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活のパターンに合わせて休憩時間を作っている。体調に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつ服薬管理、確認し症状の変化等記録をとりきめ細かくチェックしています。薬の管理は複数のスタッフで確認・服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭きの手伝いをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	状況に応じて散歩に出掛ける。また外気浴を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして預かり、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「おたより」の中に近況連絡事項等を書いてお知らせしています。イベントのお知らせもお便りに書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは利用者様が自由に誰とでも話が出来る様テーブル・ソファを設置している。周りも車椅子が自由に動ける様にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方がテーブルを囲んで好きな場所で過ごして頂けるように努める。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓はもちろん動きやすいように下には物は置かずになっている。御本人の作品を飾り暖かい雰囲気になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置の配慮などし、居室内に自分の作品を飾っている。それぞれ出来る事を見極め、個々の支援を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900493		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲沢重本の家 3号館		
所在地	愛知県稲沢市重本2丁目84番地		
自己評価作成日	令和4年7月29日	評価結果市町村受理日	令和4年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900493-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900493-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が家庭の延長として本人の意向に沿い、安心と喜び又は毎日笑顔のある生活が送れる様に努め、共同生活を提供します。医療面においては、協力医であるクリニック(往診)での対応させていただきます。毎日バイタルチェックなど体調管理させていただきますので異常時早期発見に努め、異常時には協力医に相談します。協力医より色々な事で協力を得て色々な情報を頂いてます。年2回お宮掃除やごみゼロ運動などに参加しています。月1回職員が考え、各号館でイベント開催し、利用者様の笑顔を見られる環境作りをしています。散歩も状況に応じて対応しています。近所の人に果物やゆずを頂いたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年6月の運営推進会議(書面開催)議事録では、平均介護度1.8で、介護度1の利用者は10名、2を含めると15名が軽度での入所となっています。活気がある反面本人の思いや考えも明瞭なため、コロナ禍におけるストレス軽減も考慮して毎月の恒例行事(8月夏祭り、9月敬老会、10月焼きそば会etc.)では、利用者が主役となるよう配慮しており、ホットプレート上で焼きそばを炒める役割をお願いしたり、作品のアイデアを募って自己有用感もてるよう支援しています。そのような中で利用者自身にも「皆に飲んでもらいたい」という気持ちが芽生え、息子に収穫物を届けさせる人もいて、皆でありがたく喜びを分かち合っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人格を尊重し、“気と和み”を大切に、穏やかな介護を目指します。」という、ホーム独自の理念を掲げている。職員全員が理念を意識しながら声掛けや環境作りしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時、近所の人と挨拶を交わしている。年2回お宮掃除・ごみゼロ運動への参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議には、書面を渡してサービス内容の報告意見を聞き、日々のサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の訪問を頻回に行い、事故報告・入居希望者について話し合い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフに身体拘束について勉強し、身体拘束しない環境作りをしている。3ヶ月に1回身体拘束の適正化の会議をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等を実施し、虐待が見過ごされる事のないように注意を払い防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月AA課程を実施し、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談、パンフレット等を通して、家族への訪問、施設の契約説明等がより理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様への面談、家族様施設来設時などの機会を利用し、話し合いながら意見要望を聞くようにしている。それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段仕事している中で管理者と話して意見や提案を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員同志の風通しを良くし、各自が向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が開催する研修に参加できるように努めている。AA課程毎月行い、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの尾西蓮池の家と交流を図り情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、職員が本人に受け入れられるような関係作りに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいるものを理解し、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことにより、信頼関係も深められ相談に繋げられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供、その人らしさを見極めて本人・家族より決め細やかな情報を提供していただき取り組む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月のお便りや、来設時に近況情報をお伝えして、本人・家族の意向を把握し、安心して楽しく生活出来る場を提供していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、一緒に会話したり、近況報告をし、信頼関係を作っている。身体に変化有る場合は随時報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で情報を聞いたり、家族から話を聞いたりして情報を得て支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人・そうでない人と場面に応じて対応している。散歩・食事の時の席等工夫して対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係をサービス利用期間のみの関係に終わることのないように訪問・電話等によりいきめ細かい連携を心掛けて居る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様とのコミュニケーションを大切に利用者様の状況の報告や昔の話の中から御本人の喜びを知ること努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を知る事、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、本人全体像を知るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解した上、日々変化していく体調を毎日の暮らし方や心身状況をチェックし、よりよい暮らしをして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様より思いや意見を聞き、アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリングやカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活で変化や気づきを個人別の介護詳細や申し送り帳に記録し、職員間で工夫しながら介護に取り組んでる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられように、区長・民生委員と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師の月2回往診以外にも相談したり、ほかの医療機関にも紹介して頂くなど支援している。利用者様の医療情報は家族を通じて医師とホームが共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師による迅速な対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐ為に医師と連携を図り、入院時には随時家族と連携を取り、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の理解を得て、看取りの経験を複数回経験している。利用者様・ご家族様の意向を尊重し、適切な対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AA課程で急変時や介護事故の勉強をし、またどう対応するかマニュアルみて全ての職員が対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、誘導、避難経路の確認、消火器の使い方や位置の確認など訓練を年2回行っている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時、介助者と共に中に入り、ドアを閉めて行っている。各居室に入室する際はノックと御本人に声を掛けて行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がスタッフに声の掛けやすい環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入眠の時間・食事・入浴に関して御本人の気持ちを理解しながら進めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を着て頂けるように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態や食器等も1人1人にあつた物を提供出来る様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分・摂取量、毎食チェックをしながら一人一人の体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のレベルに合わせ出来る事はして頂く。声掛けにより食後口腔ケアを行い、清潔を保つ。また、訪問歯科で見て頂いている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を行い、オムツやパットの使用を減らしている。訴えの無い方などは排泄チェック表をみて、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を絶えずチェックし、食事、服薬調整、便秘にならないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	着更時、入浴洗体も声掛けながらやって頂きます。定期的入浴を基本としている。体調が悪い時は全身清拭と着衣交換を行い、つねに清潔にしていくように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活のパターンに合わせて休憩時間を作っている。体調に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつ服薬管理、確認し症状の変化等記録をとりきめ細かくチェックしています。薬の管理は複数のスタッフで確認・服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭きの手伝いをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	状況に応じて散歩に出掛ける。また外気浴を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして預かり、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月「おたより」の中に近況連絡事項等を書いてお知らせしています。イベントのお知らせもお便りに書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは利用者様が自由に誰とでも話が出来る様テーブル・ソファを設置している。周りも車椅子が自由に動ける様にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方がテーブルを囲んで好きな場所で過ごして頂けるように努める。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓はもちろん動きやすいように下には物は置かずになっている。御本人の作品を飾り暖かい雰囲気になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置の配慮などし、居室内に自分の作品を飾っている。それぞれ出来る事を見極め、個々の支援を行っている。		